

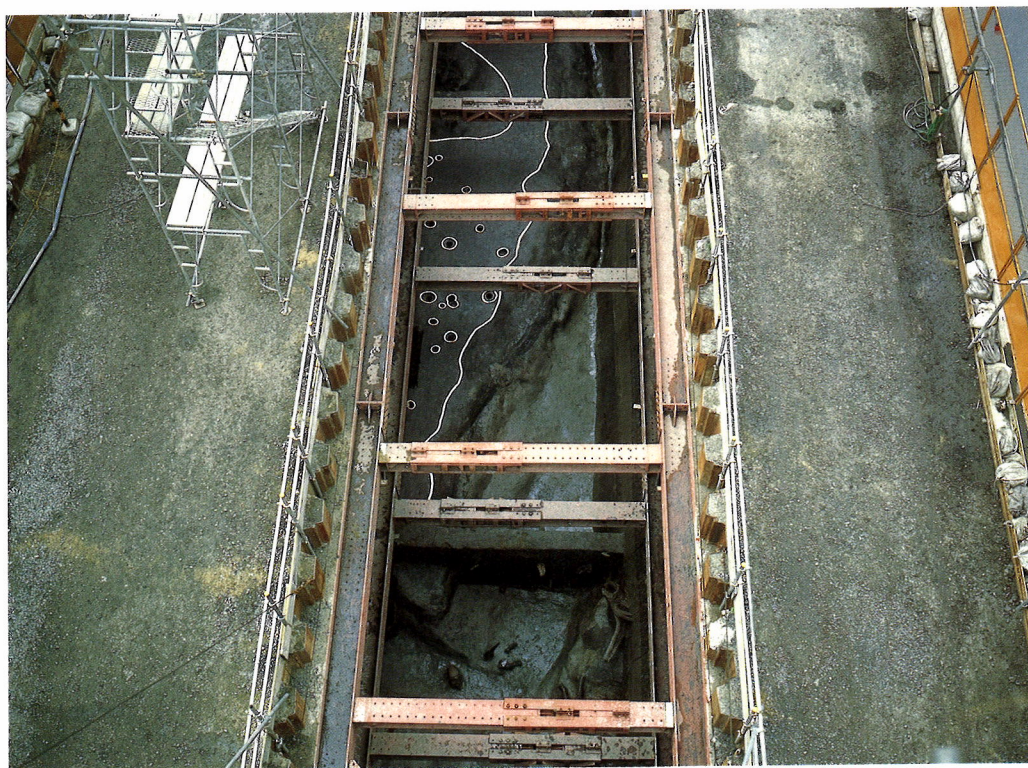
6. 鬼虎川遺跡の遺構と遺物

鬼虎川遺跡は、昭和50年に第1次発掘調査が実施され、現在では30数次に及ぶ。近年までの調査成果を踏まえて当遺跡を概観したい。当遺跡の南は微高地が形成されており、居住区の跡が確認されている。建物跡、井戸、土壇などの生活に関連した遺構や遺物が見つかった。

竪穴住居は確認されていないが、掘立柱建物の柱などが多く残っていた。また、微高地の縁辺部には貝塚が帯状に広がっており、淡水産の貝を主体として海水産・汽水産のものも出土している。微高地より西は低くなっている。杭列や杭群が検出されており、水田遺構と考えられている。

今回、鉄道東大阪線建設工事に伴って実施した本遺跡の発掘調査では、多くの成果が得られている。発掘調査地は本遺跡の北側に位置し、遺跡を東西に貫く状況であった。調査地を大きく二分すると東は墓域、西は集落の縁辺であることが確認できた。

本遺跡の墓については、前文で記しているので省略する。墓以外の遺構は環濠と考えられる大溝、溝、杭群、井戸などがある。環濠と考えられる大溝は3条あり、東西方向で確認している。環濠の幅は約5～6m、深さ約2mを測る大規模なものである。西地区では検出していないので、途中で南に曲がるものと思われる。環濠の時期は、出土遺物より第Ⅱ様式である。第



鬼虎川遺跡の環濠



▲柵柱断面



▲柵列



▲溝肩の大株

33次発掘調査では、各環濠が同時期に機能していたことが確認されている。また、環濠間には大小のピットや杭が無数に打ち込まれており、柵列などの防御用施設と考えられる。環濠より外側では数条の溝を検出しているが性格は不明である。環濠や溝の肩で多くの木株を確認しており、樹木が点々とあったことが窺える。

本遺跡からは多種多様の遺物が発見されている。第Ⅰ～Ⅳ様式の遺物が主流であるが、第Ⅴ様式のものも少量ある。弥生土器・木製品・石器・土製品・金属製品・骨角牙製品・動物遺体・植物遺体などがある。

木製品は農耕具・工具・武具・生活用具・運搬具・祭祀具などが出土している。製品だけでなく未成品も多く見られ当遺跡内で作られていたことが窺われる。農耕具は柄の着いた状態の鍬や鋤も多くある。また、補助的なものでは田下駄・堅杵・臼などがある。弥生時代の農耕を考える上では貴重な資料となっている。

工具は大型蛤刃石斧の装着された柄や手斧の柄などが出土している。武具は弓が多いが朱塗りの盾や矢柄の着いたものがある。矢柄の着いた石鏃は2例あり、桜櫓が残る。土製品は木製



▲環濠出土弥生土器



▲小型瓢形壺

の軸が着いた状態で紡錘車が見つかっており、機織具の新知見が得られている。

金属製品では鉄鑿が錆のない状態で出土している。また、金属製品を鑄造した鑄型も発見されている。石製の銅鐸鑄型・銅鐸鑄型などがある。動物遺体は、鹿や猪の骨などが大量に出土している。獲物は食料となった後、骨、角、牙も製品として加工し、無駄なく利用されている。製品には刺突具・針・腕輪・弭などがある。

本遺跡は、地表下3～4 mに埋まっており、他の遺跡では残りにくい遺物が多く発見されている。弥生時代の生活を考える上では貴重な資料をもたらしてくれる。 (才原)



▲矢柄付石鍬



▲鋤



▲鍬